

令和5年度 第2回富山市産業廃棄物処理施設審査会 議事録

1 日 時 令和6年1月10日（水） 午前10時から午前11時30分まで

2 場 所 Toyama Sakuraビル5階 大会議室

3 出席者 委 員 :大藤委員、加賀谷委員、川上委員、竹内委員、袋布委員、長谷川委員、
松村委員
事業者：株式会社アイザック・オール等8名
事務局：舟崎環境部長、片山環境部次長、沼崎環境部参事（環境政策課長）、
耕作環境部参事（廃棄物対策担当）、荒井副主幹（廃棄物対策係長）、
中田主任、小川技師

4 議事

- (1) 審査会会長及び同職務代理者の選任について
- (2) 第1回審査会議事録の確認について
- (3) 第1回審査会に係る各委員からの質問、意見等とその対応について
- (4) 関係市町村長及び利害関係者からの意見とその対応について
- (5) 審査会意見のとりまとめについて

5 議事（3）における質疑等

（事業者）

前回の審査会において、「埋立面積について、処分場の区域外側にも事業区域が設定される。そのため埋立面積のうち約3割は残置森林となっており、実際の処分場の面積は表記より小さくなっている。」と発言したが、残置森林は、埋立面積に含まれないため、この発言を訂正する。

（委員）

説明資料について、表面流出率に関しては理解できた。しかし、処分場の面積がおおよそ5割増えるのに対し、浸出液の増加率が108%にしかならないというところは理解できない。浸透率が同じにしても、面積が5割増えると浸出液の量は5割増えると思うが、なぜ108%に収まるのかという計算がよくわからないので、もう一度説明いただきたい。

（事業者）

弊社のこの想定値に対しては、実績値を運用している。西処分場を増設する際、第1処分場から西処分場における想定浸出液量を662m³/日と想定していた。しかし、現状、西処分場の運用が開始されて5年目を迎える段階において、浸出液量の実績値は356m³/日とな

っている。これは想定した浸出液量のおよそ2分の1量であった。

今回の浸出液量として想定した714m³/日は、実績値の中で示された最大値に対してさらに1.2倍の安全率を見込んだ数字となっている。端的に言えば、今回の714m³/日という想定値に対する水量に対して掛けられてる1.2という数字を外すと、およそ600m³/日弱の値になるものである。処分場は1.5倍の面積に拡張するが、埋立場内の形質の変更に伴い浸透係数は全部0.3という数字ではなく、段階を追いながら0.2の区域、0.29の区域、0.32の区域等が混在する形で埋立が進行するので、単純に5割増しの埋立面積になったから水量が大幅に増えることはないと考えている。

(委員)

現状、662m³に安全率1.2を付加して、浸出係数が0.2で計算すると、662m³/日になる。面積は5割増となり、安全率1.2に浸出係数0.2から0.3、浸出係数はむしろ増えている。なのに714m³/日しかないということがよくわからない。

(事業者)

西処分場の前の第4-2期処分場の実測値を利用して論を組み立てている。申請書中に浸出液量の算出という項目があるが、既存の処分場はそれほど大きな水量変化を示すことはない。埋立の進行に伴って、開口部が大きい条件になるときは、今申し上げたとおり、0.29や0.32、あるいは0.2の区域が混在する中で浸出液が出てくるが、埋め立てが完了すると、完了した区域は浸出液量が非常に減少する。その減少分と増加分を足し合わせて714m³/日という数字になる。

(委員)

まだわからないところがあるので、後で詳しい計算の仕方を教えていただきたい。今心配してるのは、浸出液の搬出のためのトラックの交通量が増えるということである。前回の審査会でも議論されたが、住民の方は騒音やトラックの往来のことを非常に心配されている。もし車両が足りない場合には台数を増やせばよいと書かれていたが、この45台というのが妥当なものかを問題点として回答していただきたい。

(委員)

今の搬出の台数の件はこの場でお答えになるか。

(事業者)

先ほど委員から頂戴した計算に関する意見のこともあるので、一旦この場では保留とさせていただきます。

(委員)

車両の台数の計算について、台数としては増車分と減車分が相殺されるので、現状と変わらないと説明されているが、浸出液を運搬する車両と廃棄物を運搬する車両は同じ車種ではないと思われる。浸出液を運搬する場合、ローリー車等で運搬され、廃棄物を運搬する場合、固体であればトラック等で運搬される。台数だけで議論されると同じかもしれないが、その車の種類が違うわけである。特に液体が入った車両はその管理について心配されるため、安全管理の部分は強調すると良い。固体物を運ぶことと液体物を運ぶことは同じではなく、適切な管理が必要である。

(委員)

説明資料に記載されている「大きな地震」が今回の地震だと思うが、処分場の震度はどの程度であったか。

(事業者)

報道された数値で申し上げると、震度5強だろうと考えている。

(委員)

対応として記載されている内容で基本的に良いと考えているが、様々な検証も必要である。金銭面の問題もあるが、処分場の高い場所等、揺れやすい場所に地震計を設置するのはいかがか。

(事業者)

地震計について、どういうものがあるか把握していないため、他企業と相談しながら検討したい。

6 議事(4)における質疑等

(委員)

構造物については安全であることを安定計算により確認することになるが、以前、この処分場について同様の審査を行い、安全であるだろうという計算で答申をした記憶があるが、参考までに、現在稼働中の処分場において、今回の震災によりどのような影響があったのか、特に問題なかったのか確認させていただきたい。

(事業者)

今年1月1日の午後4時に発生した地震について、当日、並びにその翌日も含めて入念に点検を行った結果、被害はなかった。

(委員)

今までの計算が正しかったことが確認できたということだと思うので、この部分については理解した。

— 閉会 —